



2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年5月10日
東

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所
 コード番号 2112 URL http://www.ensuiko.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)木村 成克
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役 (氏名)小田 俊一 (TEL) 03-3249-2381
 定時株主総会開催予定日 2024年6月27日 配当支払開始予定日 2024年6月28日
 有価証券報告書提出予定日 2024年6月27日
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期の連結業績(2023年4月1日~2024年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	31,550	12.9	1,495	140.1	2,127	190.8	1,475	196.0
2023年3月期	27,950	11.2	622	△22.8	731	△19.3	498	△18.3

(注) 包括利益 2024年3月期 2,803百万円(264.2%) 2023年3月期 769百万円(33.5%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年3月期	53.95	—	11.9	8.0	4.7
2023年3月期	18.28	—	4.7	2.8	2.2

(参考) 持分法投資損益 2024年3月期 △72百万円 2023年3月期 40百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	27,507	13,711	49.8	500.79
2023年3月期	25,877	11,028	42.6	403.93

(参考) 自己資本 2024年3月期 13,711百万円 2023年3月期 11,028百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年3月期	2,108	△227	△1,791	2,305
2023年3月期	447	△374	△1,395	2,212

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2023年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00	136	27.4	1.3
2024年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00	246	16.7	2.0
2025年3月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00		10.5	

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	30,800	△2.4	1,700	13.7	1,800	△15.4	1,300	△11.9	47.53

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
 新規 一社（社名）— 、除外 一社（社名）— : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期	35,000,000株	2023年3月期	35,000,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期	7,620,679株	2023年3月期	7,696,677株
③ 期中平均株式数	2024年3月期	27,350,459株	2023年3月期	27,274,001株

(参考) 個別業績の概要

1. 2024年3月期の個別業績（2023年4月1日～2024年3月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	21,151	9.7	1,040	303.1	1,734	450.1	1,235	502.4
2023年3月期	19,273	7.2	258	△52.2	315	△47.0	205	△48.2
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2024年3月期	45.17		—					
2023年3月期	7.52		—					

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
2024年3月期	24,838		12,174		49.0	444.67		
2023年3月期	23,672		9,864		41.7	361.28		

(参考) 自己資本 2024年3月期 12,174百万円 2023年3月期 9,864百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
連結損益計算書	7
連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	13
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類移行に伴う社会経済活動の正常化から緩やかな回復の兆しがみられる一方で、日米金利差による円安進行、原材料・エネルギー価格の高止まりによる物価上昇等から、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループはお客様、地域社会、関係取引先、従業員及びその家族の安全と健康を確保することを最優先に、災害等の緊急時においても、生活必需品である砂糖や、オリゴ糖をはじめとした機能性素材等の製品を安定して消費者の皆様にお届けすることを第一義に考え、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」として、砂糖事業及びバイオ事業の計画達成に向けて全力で取り組んでまいりました結果、当期の業績は以下のとおりとなりました。

①砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）において22.35セントで始まり、期初より原糖の供給懸念を背景とした投機筋による買いで相場の上昇が続き、27セント台をつけるなど高値圏で推移しました。さらにはインドなど主要生産国での干ばつの影響による減産予測から需給の引締りが懸念され、11月上旬には12年ぶりの高値28.14セントをつけました。その後、ブラジル中南部の今期生産量が予想を大幅に上回ったことから一旦は下落に転じましたが、同地区における干ばつの影響を見越した次年度の供給懸念が相場を下支えし、結局22.52セントで当期を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初227円～229円で始まりましたが、海外粗糖相場の高騰や円安の進行を受け、7月に239円～241円に上昇しました。さらに1月下旬には249円～251円に上昇し、そのまま当期を終了しました。

精糖及びその他糖類など国内販売は、期初より物価上昇による消費マインドの低下から家庭用・業務用製品いずれも低調に推移、その後一定の需要回復の動きが見られたものの挽回にまで至らず、数量ベースでは前年同期を下回りました。一方、実勢を踏まえた適正価格での販売に努めた結果、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、当期における砂糖事業全体の売上高は29,660百万円（前連結会計年度比13.6%増）、セグメント利益は2,299百万円（前連結会計年度比85.7%増）となりました。

②バイオ事業

オリゴ糖部門は、前期のTV特需等による販売伸張の反動を受け、期初から低調に推移しました。8月より『オリゴのおかげ』シリーズメインキャラクターとして美容家のIKKO氏を起用、CMをはじめ各種媒体を通じ積極的な広告宣伝活動を行ったことから、回復傾向にて推移しましたが、売上高は前年同期を下回りました。

サイクロデキストリン部門は、一部ユーザー向け製品の販売が好調であったため、売上高は前年同期を上回りました。

ビーツ部門は、ECサイトでの販売を中心に展開し、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、バイオ事業全体の売上高は1,837百万円（前連結会計年度比2.6%増）、原材料コスト等の上昇に伴いセグメント利益は412百万円（前連結会計年度比2.7%減）となりました。

③その他

その他の事業につきましては、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は135百万円（前連結会計年度比0.6%増）、セグメント利益は65百万円（前連結会計年度比6.9%増）となりました。

以上の結果、当期の売上高は31,550百万円（前連結会計年度比12.9%増）、営業利益は1,495百万円（前連結会計年度比140.1%増）、また、出資先からの受取配当金が増加したことから経常利益は2,127百万円（前連結会計年度比190.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,475百万円（前連結会計年度比196.0%増）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産、負債及び純資産の状況)

①資産

当連結会計年度末の総資産は前連結会計年度末に比べて1,629百万円増加し、27,507百万円となりました。

これは主に、受取手形及び売掛金518百万円、投資有価証券1,536百万円が、増加したことによるものであります。

②負債

負債合計は前連結会計年度末に比べて1,052百万円減少し、13,796百万円となりました。

これは主に、有利子負債1,655百万円の減少によるものであります。

③純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2,682百万円増加し、13,711百万円となりました。

これは主に、利益剰余金1,325百万円の増加、その他有価証券評価差額金1,232百万円の増加であります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比べて92百万円増加し、2,305百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、2,108百万円（前連結会計年度比1,661百万円の増加）となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益2,065百万円、減価償却費578百万円による資金の増加があった一方で、棚卸資産の増加31百万円、法人税等の支払367百万円による資金の減少があったことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、227百万円（前連結会計年度は374百万円の資金支出）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出273百万円による資金の減少があった一方で、投資有価証券の売却による収入62百万円による資金の増加があったことによるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、1,791百万円（前連結会計年度は1,395百万円の資金支出）となりました。

これは主に、借入金の純減額1,655百万円による資金の減少があった一方で、配当金の支払136百万円による資金の減少があったことによるものであります。

④資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、原料糖の購入費用のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資等によるものであります。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

なお、当連結会計年度末における有利子負債の残高は10,173百万円となっております。

(4) 今後の見通し

今後の見通しにつきまして、当社グループを取り巻く環境は、社会経済活動の正常化から緩やかな景気回復が続くことを期待する一方で、地政学リスクに伴うエネルギー価格・原材料価格の高止まりや円安の常態化による物価上昇などから消費マインドの低下が懸念され、先行きは不透明な状況が続いております。

かかる環境の下、当社及び当社グループは、国民の生活を支える基礎的食品である砂糖や、オリゴ糖をはじめ健康付加価値のある機能性素材等を、消費者の皆様へ安定してお届けすることを第一義とし、政府の食料安定供給に関する指針に沿い、非常時においても安全安心な製品を安定的に供給することが食品会社に課せられた使命であるとの認識の下、品質管理及び危機管理体制の強化、環境変化にも適応した事業体制の構築と経営基盤のさらなる強化に努めてまいります。

また、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」を中長期的な経営ビジョンと位置付け、以下の各事業を推進してまいります。

砂糖事業につきましては、砂糖需要が漸減傾向にある要因として、砂糖への根強い誤解と砂糖制度の不均衡に起因する砂糖以外の甘味料（異性化糖、加糖調製品、高甘味度甘味料等）の市場拡大が挙げられます。この深刻な状況に対し、国防・食料安保の観点から行政・国産糖従事者・精糖及び他甘味業界が一体となって解決へ向け取り組む必要があります。消費者の皆様へ砂糖の機能特性に対する理解を深めるべく啓蒙活動に注力するとともに、国産糖・輸入糖・異性化糖・加糖調製品・高甘味度甘味料等すべての甘味製品についてその現状を明確にし、新たな総合甘味制度の確立に向け、当業界一体となって声を挙げ、より一層厳しく対処してまいります。

バイオ事業につきましては、オリゴ糖部門では、コロナ禍を経て消費者の皆様への健康意識が高まる中、さらなる拡販に向けた重要な局面と位置づけ、重点的に取り組んでまいります。自然由来の安全安心な、少量でも整腸効果が期待できる当社代表製品「オリゴのおかげ」シリーズの機能特性について、認知度向上を図るべく積極的な広告宣伝活動を行い、一層の業容拡大に努めてまいります。

ビーツ部門につきましては、本格的な事業化に向け、「ビーツドリンク」及び「ドライビーツチップ」を軸に、ECサイトでの販売を中心に拡販に努めてまいります。さらにはビーツの新たな可能性を模索し、新用途開拓に努めてまいります。

サイクロデキストリン部門につきましては、一層の技術改善等を行い、事業推進に努めてまいります。

新商品開発につきましては、生活に欠かせない砂糖の新たな価値を提供すべく様々な機能（保水、防腐、酸化防止等）に着目した新商品開発に取り組み、砂糖市場の活性化に向けアプローチし砂糖の未来を切り拓くべく全力を注いでまいります。また、バイオ事業においても引き続き「おなかにやさしい会社」をキャッチフレーズに、各部門の育成・強化を図るべく新商品開発にもチャレンジしてまいります。

なお、大東製糖株式会社との業務提携の状況につきましては、現在「ユーモアな食品を提供し、未来を創る会社へ」をテーマに、「新事業・新商品開発」「既存事業強化」「販売体制強化」「さとうの未来を創る社会貢献活動」の4項目を協業の軸として、それぞれ両社横断による会議体を設け、取り組みを開始しております。今後、皆様の投資判断に影響を及ぼす事項が決定した場合には、適宜、適切な情報開示を行います。

かかる状況を踏まえ、次期の連結業績見通しにつきましては、売上高は30,800百万円（前年同期比2.4%減）、営業利益は1,700百万円（同13.7%増）、経常利益は1,800百万円（同15.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,300百万円（同11.9%減）を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、国内でのIFRSの採用動向を検討した結果、当面は日本基準に基づき連結財務諸表を作成する方針です。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,212	2,305
受取手形及び売掛金	2,012	2,531
商品及び製品	1,395	1,275
仕掛品	206	286
原材料及び貯蔵品	1,670	1,741
その他	1,190	1,191
流動資産合計	8,688	9,331
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,211	10,223
減価償却累計額	△7,630	△7,822
建物及び構築物（純額）	2,580	2,401
機械装置及び運搬具	12,257	12,225
減価償却累計額	△10,522	△10,602
機械装置及び運搬具（純額）	1,735	1,623
工具、器具及び備品	425	415
減価償却累計額	△379	△380
工具、器具及び備品（純額）	45	35
土地	5,234	5,185
建設仮勘定	93	189
有形固定資産合計	9,690	9,435
無形固定資産		
ソフトウェア	19	10
その他	6	6
無形固定資産合計	25	16
投資その他の資産		
投資有価証券	5,221	6,758
長期貸付金	1,511	1,617
繰延税金資産	648	276
その他	92	72
投資その他の資産合計	7,473	8,724
固定資産合計	17,189	18,176
資産合計	25,877	27,507

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,176	1,139
短期借入金	4,800	4,300
1年内返済予定の長期借入金	1,872	2,000
未払法人税等	107	356
未払消費税等	75	178
賞与引当金	65	63
その他	1,063	1,275
流動負債合計	9,159	9,313
固定負債		
長期借入金	5,156	3,873
退職給付に係る負債	300	185
繰延税金負債	—	191
その他	232	232
固定負債合計	5,689	4,482
負債合計	14,849	13,796
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	241	241
利益剰余金	12,448	13,773
自己株式	△2,946	△2,916
株主資本合計	11,493	12,848
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△433	799
繰延ヘッジ損益	△1	0
退職給付に係る調整累計額	△30	63
その他の包括利益累計額合計	△464	862
純資産合計	11,028	13,711
負債純資産合計	25,877	27,507

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	27,950	31,550
売上原価	24,356	26,904
売上総利益	3,593	4,646
販売費及び一般管理費	2,970	3,151
営業利益	622	1,495
営業外収益		
受取利息	28	32
受取配当金	126	791
持分法による投資利益	40	—
為替差益	18	4
その他	20	13
営業外収益合計	234	840
営業外費用		
支払利息	89	93
持分法による投資損失	—	72
支払手数料	18	6
その他	17	36
営業外費用合計	126	208
経常利益	731	2,127
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1
投資有価証券清算益	—	27
特別利益合計	—	29
特別損失		
減損損失	—	49
固定資産除却損	—	34
棚卸資産廃棄損	—	8
特別損失合計	—	91
税金等調整前当期純利益	731	2,065
法人税、住民税及び事業税	227	602
法人税等調整額	6	△12
法人税等合計	233	590
当期純利益	498	1,475
親会社株主に帰属する当期純利益	498	1,475

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純利益	498	1,475
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	300	1,230
繰延ヘッジ損益	△2	1
退職給付に係る調整額	△31	75
持分法適用会社に対する持分相当額	4	20
その他の包括利益合計	271	1,327
包括利益	769	2,803
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	769	2,803

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,750	241	12,099	△2,976	11,115
当期変動額					
剰余金の配当			△136		△136
親会社株主に帰属する当期純利益			498		498
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△13		29	15
自己株式処分差損の振替		13	△13		—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	—	348	29	378
当期末残高	1,750	241	12,448	△2,946	11,493

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	△734	0	△1	△736	10,379
当期変動額					
剰余金の配当				—	△136
親会社株主に帰属する当期純利益				—	498
自己株式の取得				—	△0
自己株式の処分				—	15
自己株式処分差損の振替				—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	301	△2	△28	271	271
当期変動額合計	301	△2	△28	271	649
当期末残高	△433	△1	△30	△464	11,028

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,750	241	12,448	△2,946	11,493
当期変動額					
剰余金の配当			△136		△136
親会社株主に帰属する当期純利益			1,475		1,475
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△13		29	15
自己株式処分差損の振替		13	△13		—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	—	1,325	29	1,354
当期末残高	1,750	241	13,773	△2,916	12,848

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	△433	△1	△30	△464	11,028
当期変動額					
剰余金の配当				—	△136
親会社株主に帰属する当期純利益				—	1,475
自己株式の取得				—	△0
自己株式の処分				—	15
自己株式処分差損の振替				—	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,232	1	93	1,327	1,327
当期変動額合計	1,232	1	93	1,327	2,682
当期末残高	799	0	63	862	13,711

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	731	2,065
減価償却費	630	578
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△116	△5
賞与引当金の増減額 (△は減少)	0	△2
受取利息及び受取配当金	△155	△823
支払利息	89	93
支払手数料	10	—
為替差損益 (△は益)	△1	△3
持分法による投資損益 (△は益)	△40	72
減損損失	—	49
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△1
売上債権の増減額 (△は増加)	△286	△518
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△691	△31
仕入債務の増減額 (△は減少)	292	△36
その他	163	299
小計	626	1,734
利息及び配当金の受取額	155	835
利息の支払額	△88	△94
法人税等の支払額	△246	△367
営業活動によるキャッシュ・フロー	447	2,108
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△297	△273
無形固定資産の取得による支出	△9	△0
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	—	62
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△41	△4
貸付けによる支出	△910	△990
貸付金の回収による収入	885	914
その他	—	64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△374	△227
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△500
長期借入れによる収入	1,489	800
長期借入金の返済による支出	△2,748	△1,955
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△136	△136
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,395	△1,791
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	3
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,320	92
現金及び現金同等物の期首残高	3,533	2,212
現金及び現金同等物の期末残高	2,212	2,305

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象事業の単位で構成しております。

「砂糖事業」は砂糖を製造・販売し、「バイオ事業」は乳糖果糖オリゴ糖及びサイクロデキストリンを製造・販売しております。「その他」については、主にニューE S Rビルの一部を第三者へ賃貸しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報
前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1) (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	26,077	1,754	—	27,832	—	27,832
その他の収益(注4)	—	—	118	118	—	118
外部顧客への売上高	26,077	1,754	118	27,950	—	27,950
セグメント間の内部売上高又は振替高	28	36	16	80	△80	—
計	26,105	1,790	134	28,030	△80	27,950
セグメント利益	1,238	424	61	1,724	△1,101	622
セグメント資産	13,737	1,674	1,064	16,475	9,401	25,877
その他の項目						
減価償却費	492	64	21	578	52	630
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	269	38	—	308	2	310

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。
 2 セグメント資産の調整額9,401百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に預金、本社有形固定資産及び投資有価証券等であります。
 3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 4 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等でありませぬ。

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1) (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	29,633	1,798	—	31,432	—	31,432
その他の収益(注4)	—	—	118	118	—	118
外部顧客への売上高	29,633	1,798	118	31,550	—	31,550
セグメント間の内部売上高又は振替高	27	38	16	82	△82	—
計	29,660	1,837	135	31,633	△82	31,550
セグメント利益	2,299	412	65	2,778	△1,283	1,495
セグメント資産	14,059	1,644	1,055	16,759	10,748	27,507
その他の項目						
減価償却費	470	59	14	544	33	578
減損損失	—	—	—	—	49	49
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	326	39	—	366	13	379

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント資産の調整額10,748百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に預金、本社有形固定資産及び投資有価証券等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	403円93銭	500円79銭
1株当たり当期純利益金額	18円28銭	53円95銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	498	1,475
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	498	1,475
普通株式の期中平均株式数(株)	27,274,001	27,350,459

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当連結会計年度末 (2024年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	11,028	13,711
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	11,028	13,711
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	27,303,323	27,379,321

(重要な後発事象)

該当事項はありません。